

「建交労とうきょう」はい  
つでもみなさまからの記事  
や写真を待っています。

（メール） tohonbukenkouro@sm  
ile.odn.ne.jp  
ホームページ  
http://www.kenkouro.com/

建交労

# おとうきょう

建交労東京都本部機関紙

発行所  
全日本建設交通一般労働組合東京都本部  
〒135-0048  
江東区門前仲町1-20-3  
東京建設自労会館7階  
電話 03 (3820)8644(代)  
fax 03 (3820)8646  
編集発行人 松田 隆浩  
1部15円組合費に含まれる（〒60円）

## 建交労東京埼玉トラック部会共催 10月9日「トラックの日」行動開催

10月9日（木）、建交労東京・埼玉トラック部会共催で、埼玉県の大宮トラックステーションにて「トラックの日行動」を実施しました。建交労東京トラック・埼玉トラック部会より10名、栃木トラック部会より1名、新聞記者様3名。また、ドライバー向けの健康チェックのため医療生協さいたま様より4名の保健師、計18名での行動となりました。行動前に、保健師の方々に向けて「トラック運輸産業で働く労働者の現状について」と題して埼玉トラック部会

前山事務局長が学習会を行い、トラック運輸産業が果たす役割や過酷な賃金・労働条件の実態を共有しました。10時より集会を行い、上村東京トラック部会事務局長、鈴木埼玉トラック部会長、医療生協さいたま稲村様よりお話を頂き、行動をスタート。トラックアンケート調査・ドライバー健康チェック・トラックステーション周辺の清掃等を行いました。実態調査では、法改正以降あまり変わらない労働実態の中で、今後の生活を不安視する声や、430休憩（4時間連続運転に対し30分の



大宮トラックステーションで開催されました

休憩義務を確実に行うためTSやSA・PAなどの休憩施設をもつと拡充して欲しいという声があり、健康チェックでは、高血圧や慢性的な睡眠不足など、ドライバー特有の健康実態が分かりました。トラックアンケート調査53筆を集約、10名の方に健康チェックを受診していただきました。

【東京トラック部会事務局長 上村 誠】

## 原爆による未曾有の被害、しかし国は被爆者を見捨てようとした 2025原水禁世界大会in長崎に参加して

今から80年前、1945年8月9日長崎市、その日は午前中から鳴り響いていた空襲警報が、お昼前に解除され、人々は午後の活動を再開しようとしていた。そんな時、空から数機の飛行機の音を聞いた人達がいた。直後、眩い光に包まれ、場所によっては一瞬で大火傷を負い何かよく分からない力で突き飛ばされ、窓ガラスが一瞬で粉々になり、木造家は薙ぎ倒された（衝撃波による）。その後、凄まじい爆風と爆風によって飛散した物が襲ってきた。人類史上2回目の原爆の投下、爆発によって発生した火球の表面温度は約7000℃と太陽の表面よりも高い温度で、直下にいた人々は一瞬にして蒸発してしまった。無傷で軽傷で逃れた人々にも、黒い雨が降り注いだ。原爆投下で長崎では1945年末までに7万4千人が死亡とされているが、そのほとんどは被爆から10日以内に亡くなっている。日本被団協代表委員の田中昭巳さんによれば、山の向こう（市の中心部）で大火災が発生している様に思えたとのこと。救護所と

なっていた小学校には負傷した人達が次々と運び込まれていたが、医者や看護婦はおらず、次々と息を引き取っていつている状態。8月12日に伯母が危篤との情報があり、森を抜けて市街地へ行く途中、野原が真っ黒焦げになっていたのを見て大変な事が起こったと実感した。家が立っていた場所には沢山の遺体があり、倒壊した建物の下敷きになった人々が助けを求めていたが田中さんは心の目を閉じる思いで先を急いだ。ようやくたどりついた伯母の家で目にしたのは「黒い炭のようになったかつて人間だったモノ」に、変わり果ててしまっていた伯母と従兄弟の姿だった。田中さんは当時、軍国少年で「戦争の為に命が無くなる事はやむを得ない事だ」と思っていたが、原爆の人間として生きる事も死ぬ事も許されないという現実を目の前にして「そんなのは違う。」という想いが湧き上がった。8月15日終戦後、アメリカは原爆投下への世界的批判を恐れ、ジャーナリストの広島・長崎への立ち入りを禁止した。被爆による放射線障害に苦しむ人々が多くいる中、アメリカは「原爆の後遺症などというものは無い」とし日本政府も追従した。救護所は3ヶ月で閉鎖され、まるで被爆者は一人でも多く居なくなってくれと言わんばかりの対応だった。放射能による障



8月4日～6日は広島、8月7日～9日は長崎で開催されました

害は、原因不明の感染性の病気の様に扱われ、ただの怠け病だと揶揄され差別された。原爆の放射能による症状であると明るみに出たのが、1954年ビキニ環礁で核実験により被曝した焼津のマグロ漁船「第五福竜丸」の事故をきっかけに反原水爆の運動広がり被団協が結成されてからだ。日本被団協代表委員で元建交労組合員だった田中重光さんは「被爆90年には私はいまさら」と語っている。

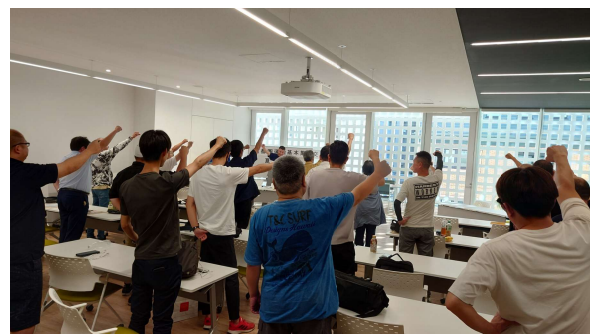
今生きている私達にできる事は、被爆者の心、遺志に寄り添い、戦争や原爆の悲惨さ生きとし生けるもの全ての命の大切さを後世に伝え、核兵器が世界からなくなる日が来るまで、核廃絶への声を上げ続ける事であろう。

【鉄道東京地本 秋山 哉保】



## 首都圏運輸基本集団交渉団 第19回夏季学習会 開催

7月26日（土・祝）、神田支部本社4Fの研修室にて、建交労首都圏運輸基本集団交渉団第19回夏季学習会を開催し、東京・埼玉支部をはじめ関西合同支部・鹿児島県本部などリモート参加を合わせ、全体で34名が参加しました。冒頭、鈴木事務局長（埼玉合同支部）の開会挨拶と上村集団交渉団長の挨拶の後、三多摩法律事務所村松暁弁護士より「みせかけの歩合給に歯止めを（サカイ引越センター事例）」という題目で講義を行っていたが、これまでの訴訟の経過等について学習しました。労働者が「出来高払制賃金」によって残業代を不当に低く抑えられていると会社（サカイ）を提訴。賃金体系が法的に妥当なのかどうかを争う裁判です。村松弁護士は「売上高や作業件数等を成果とする賃金体系は容認されるが、本来払うべき割増賃金を低く抑えることは違法である。同様の賃金体系を採用している企業において、大変重要な判例になる。」と述べました。講義後の質疑応答では「年俸制を採用している会社では残業代や歩合



神田支部本社4F 研修室で開催されました

が適切に払われていないと伺っているが、こういった場合も適切な額を請求出来るのか？」など複数の質問が寄せられました。【集団交渉団長 上村 誠】

## 第27回 建交労中央定期大会 群馬磯部温泉にて開催

8月30日～31日「大幅賃上げ・雇用と仕事を守る運動を広げよう、全組合員が参加する要求闘争・組織活動」をテーマに第27回建交労中央定期大会が群馬県磯部温泉で開催されました。冒頭に挨拶をした足立浩（ゆたか）執行委員長は「要求闘争で大幅賃上げ4万円を勝ち取るためには、政治闘争・要求闘争を不可分の課題として迫る必要がある。今年6月にトラック適正化法が成立した。1990年に規制緩和が行われてから35年大きな変革となっ

た。建交労全国トラック部会と建交労中央運輸労使協議会が長年求めてきた『国に必要最低限のコスト・適正原価を示すこと』を明記させた。業界団体である全日本トラック協会と運輸労連・交通労連・建交労の労組3単産が共同で成立に向けて奮闘し協力共同する政党が国会追及した成果である。それぞれの業種での統一要求作成が求められる。今年は被爆80年、失業と貧乏と戦争に反対してきた歴史をもつ建交労の取り組みを更に強化しよう。」と訴えました。廣瀬書記長の方針提案など議案提案の後、会場から各業種の活動の中



開会挨拶をする足立浩中央執行委員長

心に発言がありました。神田支部が組織拡大年間152名を達成し表彰されています。大会宣言等を含め全ての議案採択されました。（来年は栃木県宇都宮で開催予定）

## 「二人で悩まず組合に相談を」 東京建設関連支部会 宣伝行動

7月30日（水）東京建設・関連支部会は、都本部主催の宣伝行動を中野駅北口広場で開催し、御馴染みとなった建築設計支部いしづえ分会の六神要さんによる三線の演奏と歌声が、中野の夜を華やかに彩りました。建設・関連支部会の仲間の他、東京トラック部会・神田支部の仲間も駆け付け、テッシュビラを配布しながら労働組合への加盟を呼びかけ、建築士、ビルメン技術者、マンション管理業界など、建設業界で働く組合組織の各代表が、低賃金や長時間労働などの諸課題を一緒に改善しようと訴

えました。建築士の視点から環境問題の改善を提起する金田正夫建築士は「2050年には地球資源が枯渇してしまう。まやかしの省エネではなく、今ある建物を改修して生かすなど、なるべくエネルギーを使わない『省資源』の建設業界にシフトすべき。」と訴えました。連日30℃を超える暑さは地球温暖化の表れと実感しました。猛暑の中、中野駅前にはたくさんの駅利用客が行き交い350枚のティッシュビラは30分で完配しました。フィナーレに、自民党裏金問題を鋭く批判した同支部の伏谷政幸建築士作詞による「裏金賛歌」を歌声の仲間が合唱し、道行く人から



都本部や東京トラック部会の仲間（神田支部上村委員長、石塚書記長）が結集しました

手拍子を頂くなど共感を呼びました。次回は11月19日（水）19時～夏と同じ場所の中野駅北口で宣伝行動を開催予定です。【東京建設・関連支部会 事務局長 笹原 和樹】

## 組合掲示板

- 11月 6日（木）10時～秋の中央行動（業種部会）・ゼネコン要請／国交省前
- 11月 8日（土）～9日（日）建交労中央女性部定期大会in東京／中央本部6階会議室
- 11月 9日（日）14時～東京地評青年協東京ジャック／池袋東口五差路交差点
- 11月 9日（日）13時半～第11回はたらく女性の東京集会／エデュカス東京7Fホール
- 11月11日（火）～12日（水）～第38回日本高齢者大会inさいたま
- 11月15日（土）13時～18回東京働くものの権利討論集会／ラパスホール
- 11月19日（水）15時～秋の労働局交渉／九段下合同庁舎11階会議室
- 11月23日（日）～24日（月・振休）中央本部26春闘討論集会／サンバレー富士見
- 12月 7日（日）13時～東京都本部26春闘討論集会／エデュカス東京

必要な3分の2超を維持しています。参政党は天皇を中心とした戦前の日本に回帰するもので今の日本国憲法とは相いれませ

必要です。参政党は天皇を中心とした戦前の日本に回帰するもので今の日本国憲法とは相いれませ

た夏野菜とシソジュースのお土産を頂き、熱中症に負けないで本番の夏をガンバローと誓い合いました。【中部一般支部・中部市民間分会 廣川 陽子】